

PRESTO® W80

5Lのガラス反応容器を -30℃から+20℃に加熱運転

目的：

このケーススタディは5リットルガラスリアクターを使い、JULABO PRESTO® W80の冷却能力をテストします。JULABO PRESTO® W80片道1mの金属配管によって接続されています。温度は、-30℃から+20℃間で加熱運転するようプログラムされています。

環境：

室温	+20 °C
湿度	45%
電源	230 V / 50 Hz

試験条件：

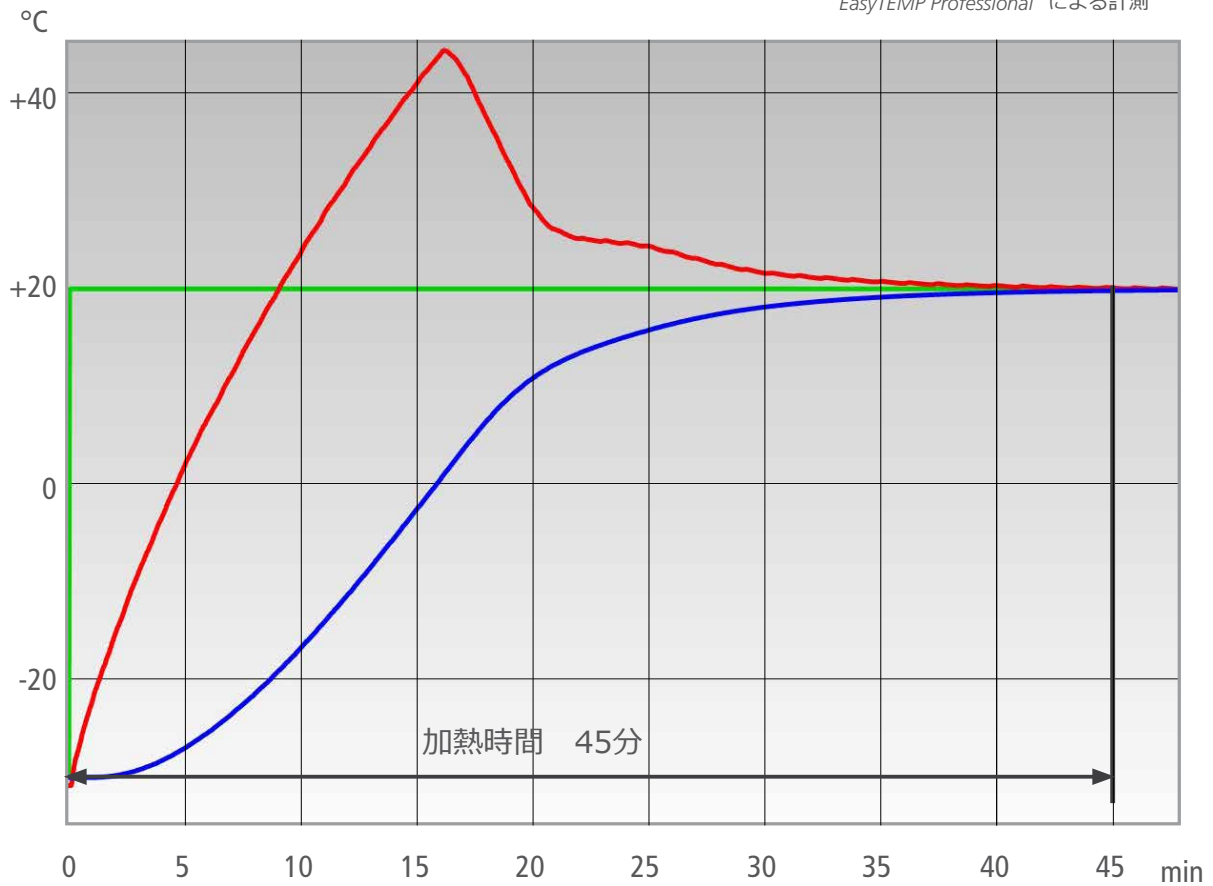
使用機種	PRESTO® W80
冷却能力	+20 °C 1.2 kW 0 °C 1.2 kW -20 °C 1.1 kW
ヒーター容量	1.8 kW
バンドリミット	設定していません
ポンプ圧	0.4 bar
循環液	ユラボ社製 サーマルHL80
反応容器	5 Lガラス製反応容器 (Rettberg) (容器内にはユラボ社製サーマルHL80を5L充填しています)
ジャケット容量	2.5 L
温度制御	外部制御(ICC)



試験結果：

PRESTO® W80 は、45分で-30℃から+20℃へ加熱運転しました。
オーバーシュートすることなく+20℃に達しました。

EasyTEMP Professional による計測



- 設定温度
- ガラス反応容器内温度
- ガラス反応容器ジャケット温度

その他機能

無償ソフトウェアの EasyTEMP を使えば、PC で操作が行えて、温度グラフ表示も出来ます。

その他機能

PTFE コーティングされた堅牢な Pt100 センサーが使用可能です。